

研究クラスター「政治的意思決定とジャーナリズムによるサステナビリティの確保に関する包括的研究」	
題目	2009 年度 IR3S/WISPJ 活動成果及び 2010 年度以降の SSC を通じた活動について
著者	早稲田大学院環境・エネルギー研究科・環境総合研究センター 教授 吉田徳久 〒367-0035 埼玉県本庄市西富田 1011 Tel 0495-24-6049 toc_yoshida@waseda.jp

1. 研究の目的・概要

IR3S（サステナビリティ学連携研究機構）はサステナビリティ学の樹立を目指して、東大、京大等 5 参加大学と、早稲田大学等 7 つの協力機関が共同で進めるプロジェクトである。IR3S 参画大学は、これまでの研究実績を踏まえて持ち味を生かしつつ、サステナビリティ学の形成に貢献することが期待されている。早稲田大学は、「政治とジャーナリズム」の視点から、持続可能な社会を実現する道を探り、サステナビリティ学の樹立に貢献することを目指して活動を行なった。なお、本プロジェクトは 2009 年度までの 3 年間実施され、終了した。

2. 2009 年度の実績と研究成果

2007 年度より、白井総長をヘッドとするプロジェクトを環境総合研究センターに置き、三つのサブテーマ（マクロ政治（国際政治）の視点、ミクロ政治（国内政治）の視点及びジャーナリズムの視点）について、それぞれに研究班を設け、研究と教育の両面で以下の活動を展開してきた。なお、研究班活動の相互連携を高めるため、2009 年度においては、マクロ班とジャーナリズム班は合同で活動を実施した。

（１）環境報道と環境政治の関係性を見据え、新しい環境ジャーナリズム育成の可能性を探るため、地球温暖化に関する報道内容・姿勢を分析し、国民への影響に関する検証を行った。検証の対象としたのは日本の報道機関のほか、中国、韓国の報道機関である。

（２）国際政治の温暖化問題への取組みを追跡し、わが国の政策決定過程とジャーナリズムの役割との関連を分析した。

①温暖化対策における日本・EU 等の先進国及びアジアを中心とした途上国の政治と、我が国の国際開発協力のあり方について考察した。特に、10 月にモンゴル・ウランバートルで、温暖化の影響を受けやすい脆弱な生態系を抱える半乾燥地域での適応政策のあり方をめぐる国際シンポジウムを開催した。また、その成果を踏まえてウランバートル宣言を採択した。

②わが国政府で温暖化政策の外交交渉に直接携わる高官との意見交換を通じて、パワーポリティックスの実情を把握するとともに、COP15 を密着取材してわが国と諸外国の交渉ぶりについて国際政治の立場から分析・検討を行なった。

③日本の代表的な新聞社の論説委員等へのインタビューを通じて、新聞の温暖化報道のアジェンダセッティングの現状、社説の論調の決定過程、読者からの反響の受け止め方などを把握し、報道現場における意思決定の実態について考察した。

④2007 年度～2009 年度までの 3 年間の集大成として、2010 年 1 月末に小野梓記念講堂において、「岐路に立つ世界の気候政策」と題するシンポジウムを開催し、国連副学長武内和彦氏の基調講演をいただくとともに、不調に終わった COP15 を踏まえて、世界の気候政策の行方を探りつつ、大学がこれからの政策形成に果たすべき役割について討議した。

（３）地域（自治体）における政治的意思決定メカニズムを探るため、循環型地域社会・低炭素社会実現へ向けた、市町村レベルでの廃棄物処理対策の実態と、環境モデル都市の取組みの状況を詳細に分析しつつ、地域合意における市民参加の実情などを明らかにした。

（４）教育に関しては、以下のような活動が具体化している。

〔大学院教育〕

①大学院環境・エネルギー研究科において「国際環境リーダー育成プログラム」の展開（2009 年度から）

②北京大学と「持続可能な発展」分野での共同大学院の設立準備と、それに先駆けての学生の交流開始（2009 年度から）。

③政経学術院のジャーナリズムコースに「環境ジャーナリズムプログラム」を設置（2010 年度から）

〔学部教育〕

オープン教育としてテーマスタディ（副専攻）「戦略的環境研究」を設置（2008 年度から）し、大学院との一体的な教育システムの確立を図ることを目指している。以上の活動成果を報告書として取り纏めた。

なお、本プロジェクトの全体構図と今後の想定される展開を図示すると下図のようになる。

図-1 IR3S／WISPJの到達点と今後の発展



3. 2010 年度以降の SSC を通じた活動について

IR3S プロジェクトは 2009 年度をもって終了した。本プロジェクトに参加したすべての諸大学・研究機関は、サステナビリティ学の確立に向けたこれまでの努力をさらに発展させるための今後の活動の受け皿とすべく、一般社団法人サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム（SSC）を 2010 年 5 月に設立する準備を進めている。早稲田大学は SSC に参加するとともに、2010 年度以降の学内体制の見直し、活動資金の確保、IR3S/WISPJ の成果の有効な活用方法等について引き続き検討を進めることとしている。